

TPM-5 取扱説明書

安全にお使いいただくために



重要

本製品をより効率的にお使いいただくために、取扱説明書の内容についてよくご理解してください。
この取扱説明書は、本製品の基本操作を説明するもので、故障を修理する方法を記載したものではありません。本製品は診断テストや車両故障のおおよその箇所の発見に使用するためのもので、車両の診断を行う際に使用者は、サービス（保守整備）マニュアルと最新の保守整備用公示資料も参照していただくようお願いいたします。
修理に関しては、製造元車両サービスマニュアルまたは他の故障修理の出版物でお確かめ下さい。



注意

本製品を十分に活用していただくためには、車両コンピュータコントロールシステムを熟知されている必要があります。
本製品を使用する際に修理書を参照せず、無理な使い方や車両を破損させた場合、本製品の正しい使用方法以外で発生した損害については、一切の責任を負いかねます。
人的な傷害を未然に防ぐために、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけ、車輪止めを行い車両の点検・修理を行ってください。
車庫などの周囲が囲まれている空間でエンジンを作動させたまま点検を行う際には、必ず十分な換気を行ってください。排気ガス中には意識不明状態や死亡に至る恐れのある無色無臭で非常に危険な一酸化炭素が含まれておりますので、排気ガスは絶対に吸い込まないようにしてください。
診断ケーブルを車両に接続するときは、車両のイグニッションスイッチが OFF の位置にあることを必ず確認してください。イグニッションスイッチが ON の位置で接続すると、TPM-5 本体やプログラムを破壊する場合があります。
車両の診断コネクタにケーブルがしっかりと接続されていることを確かめてから、本製品をお使いください。
運転者は、運転中に本製品を操作しないでください。
電源電圧は DC10V 以上 32V 以下でお使いください。



禁止事項

濡れた手で、本製品にふれないでください。
本体およびケーブル等を水に濡らしたり、衝撃等を与えないでください。
本体およびケーブル、アダプター等の金属端子部に直接手を触れないでください。汚れによる接触不良や静電気による破壊等が発生する場合があります。

車種によってサービスデータが有効ではない場合は車両システムの変更による可能性があります。
本製品を分解・改造しないでください。
本体のコネクタ部に異物を入れないでください。
本製品を直射日光が当たる場所や高温になる場所または、炎天下の車室内に放置しないでください。
本製品に別の製品のケーブルを使用しないでください。



アドバイス

本製品を使用し、何度診断を試みても診断ができない場合は、診断コネクタの接触不良および断線等が考えられますのでご確認ください。また、サポートされていない車両の可能性もあります。
車両側の故障診断機能の対応によってはデータ表示の内容が正しくない場合があります。

目次

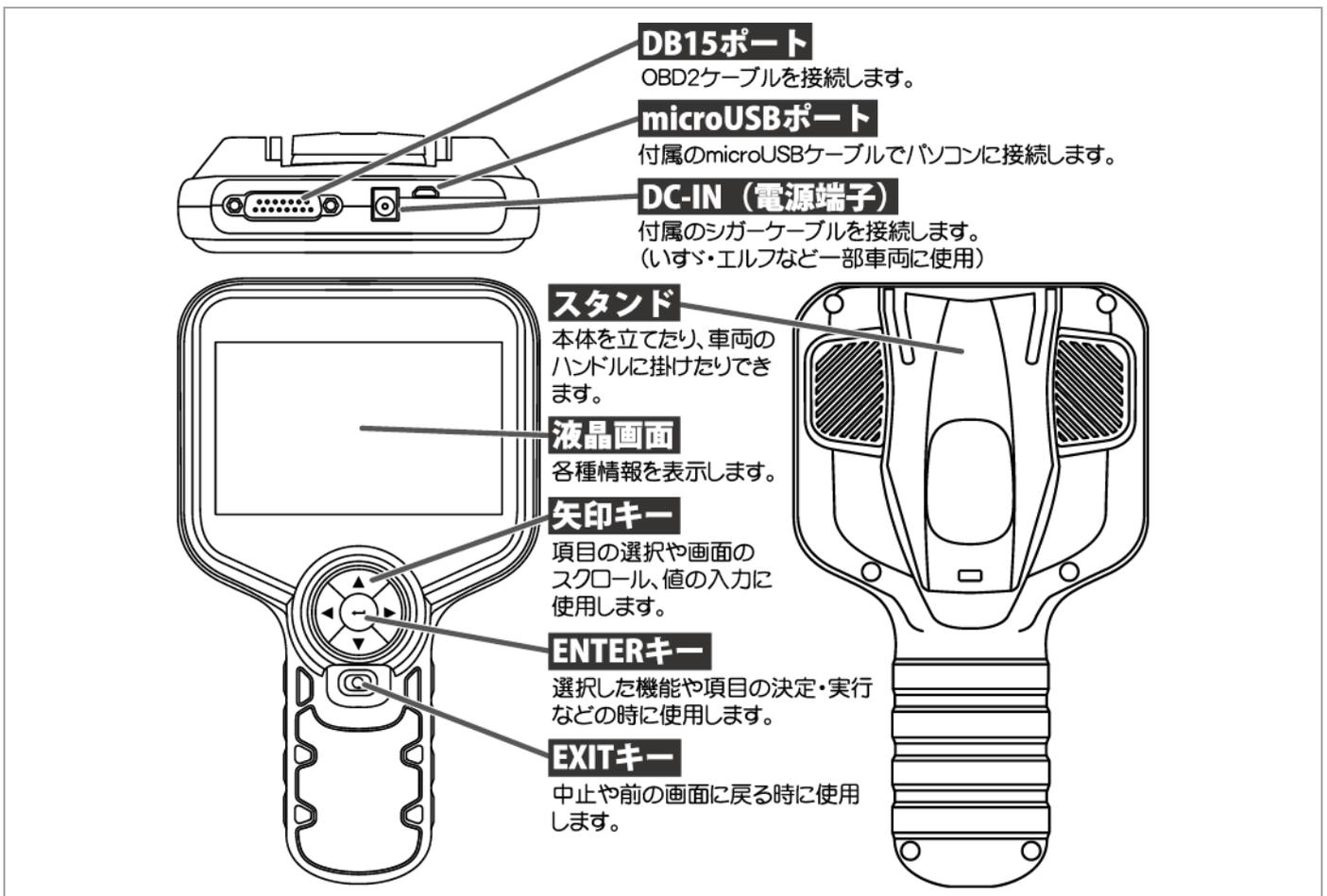
目次	3
1. 梱包品の確認	4
2. 各部名称	4
3. 初期設定と ID の確認	6
接続と起動	6
機能説明	6
設定画面の起動	7
言語の設定	7
コントラストの設定	7
キーパッドのバックライト	7
メーカーの自動選択	7
時計の設定	7
本体 ID	8
4. 診断	9
故障コードの読取	9
故障コードの消去	11
故障コードの消去	11
データモニタ	12
データ保存	13
結果を印刷する	14
DTC ヘルプ機能	15
カスタマイズ	16
作業サポート	17
アクティブテスト	18
5. 特殊機能	19
特殊機能の各アイコン	19
簡易バッテリーテスト	19
6. 履歴	21
保存データの表示（再生）	21
保存データの消去	22
7. 保存データを PC で確認する	23
ファイルを表示する	23
8. トラブルシューティング	24
9. 保証について	27

1. 梱包品の確認

ご使用前にすべての製品が揃っていることを確認してください。
 万一、不足の品がありましたらお手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

			
TPM-5 本体	OBD2 ケーブル	シガーケーブル	micro USB ケーブル
		※リスト内の製品は予告なく変更する場合があります。 予めご了承ください。	
キャリングケース	クイックスタートガイド		

2. 各部名称



本体仕様

本体寸法:	145 (W) x 240 (H) x 50 (D) mm
本体重量:	412 g
電源電圧:	10-32VDC
使用温度範囲:	0~+50℃
保存温度範囲:	-20~+70℃
保存湿度範囲:	20~85%RH (但し結露のないこと)
標準 I/F:	High Speed CAN, Low Speed CAN, Single Wired CAN, ISO-9141, ISO-9141-2, KWP2000 SAE-J1708, J1850 (PWM/VPW), Generic (pull-up, UART×2), DDL, MMC
PC 用 I/F:	USB2.0 micro-B(OTG) high-speed
プリンタ I/F:	Bluetooth BR/EDR BLE4.1
CPU:	ARM Cortex M7 216MHz
ROM (OS) :	512KB
ROM (AP) :	8GB (Internal Flash eMMC)
RAM:	256Mb + 256kb
バッテリー:	リチウム 3.0V 50mAh (時計用)
LCD モニタ:	5.0 インチ (800 RGB x 480 pixels) TFT カラー液晶
OS:	FreeRTOS
操作キー:	ENTER,EXIT,↑,↓,←,→

※製品仕様は予告なく変更する場合があります。

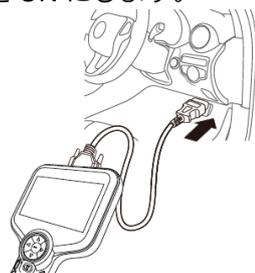
3. 初期設定と ID の確認

「設定」メニューから言語、コントラスト、キーパッドのバックライト、時計の設定が可能です。また、「本体 ID」メニューからダウンロード期限、保証期間、シリアル番号の確認が行えます。

1 接続と起動

1.

TPM-5 本体上部 DB15 ポートに OBD II ケーブルのコネクタを差し込みます。車両が**イグニッション OFF**であることを確認して S-DMT-MS を車両側 OBD II コネクタに接続してからイグニッションを ON にします。



接続してからイグニッション ON

2.

起動してメインメニューが表示されます。



2 機能説明

1.

メニューを選択します。各機能説明を参考にメニューを決定してください。



診断

車両の故障診断などを行います。

「4. 診断」(9ページ)を参照してください。



特殊機能

メンテナンスモード、エーミング、DPF 再生、簡易バッテリーテストを行います。

「5. 特殊機能」(19ページ)を参照してください。



履歴

保存したデータの再生・削除を行います。

「6. 履歴」(21ページ)を参照してください。



設定

言語切替えなどの本体設定を変更できます。

「3. 初期設定と ID の確認」(7ページ)を参照してください。



本体 ID

本体 ID (シリアル番号)、アップデートおよび保証期間を確認できます。

「3. 初期設定と ID の確認」(7ページ)を参照してください。



3 設定画面の起動

1. 「設定」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 設定画面が表示されます。上下矢印ボタンで設定する項目を選択して[ENTER]ボタンを押します。



4 言語の設定

1. 上下矢印ボタンで言語を選択して[ENTER]ボタンを押して確定します。



5 コントラストの設定

1. 上下矢印ボタンで 10%、左右矢印ボタンで 1%ずつ調整できます。調整後、[ENTER]ボタンを押して確定します。



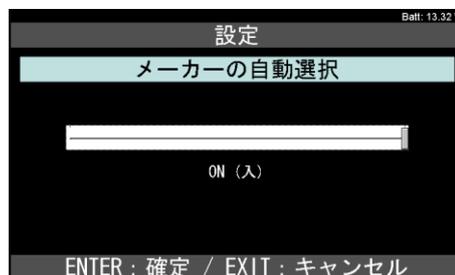
6 キーパッドのバックライト

1. 左矢印ボタンで OFF、右矢印ボタンで ON を選択できます。[ENTER]ボタンを押して確定します。



7 メーカーの自動選択

1. 左矢印ボタンで OFF、右矢印ボタンで ON を選択できます。[ENTER]ボタンを押して確定します。



8 時計の設定

1. 上下矢印ボタンで変更、左右矢印ボタンでカーソルが移動します。設定後[ENTER]ボタンを押して確定します。



9 本体 ID

1.

上下矢印ボタンで変更、左右矢印ボタンでカーソルが移動します。設定後[ENTER]ボタンを押して確定します。



2.

上下矢印ボタンで変更、左右矢印ボタンでカーソルが移動します。設定後[ENTER]ボタンを押して確定します。



4. 診断

診断ソフトの選択から故障コードの読取り、消去など基本的な操作をトヨタソフトを例に説明します。

1 故障コードの読取

1. 「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. メーカー選択画面から診断メーカーにカーソルを矢印ボタンで移動して[ENTER]ボタンを押します。



3. 診断ソフトが起動します。



4. 診断ソフトにより地域設定画面が表示されます。地域を選択してください。(通常「日本」)



5. 診断ソフトにより車両検出選択画面が表示されます。通常は「自動検出」を選択してください。選択して[ENTER]ボタンを押します。



6. 診断ソフトのメインメニュー画面が表示されます。「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



7. システム選択画面が表示されます。目的に合った項目を選択して[ENTER]ボタンを押します。(例：全自己診断の場合)



- 「全システム」「パワートレイン」などは個別でシステムを選択できます。
- 「全自己診断」は車両に搭載されている全システムの故障コードの読取りを自動で行います。

(次のページへ)

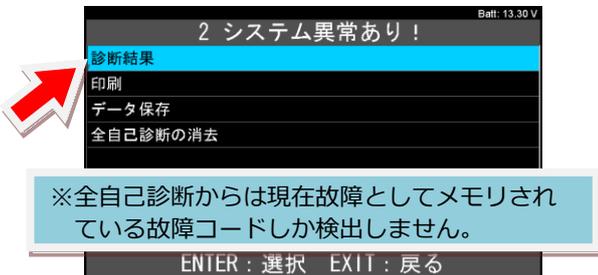
8.

車両に搭載されている各システムの故障コードの読取が開始されます。



9.

点検結果が画面上部に表示されます。異常がない場合は「異常なし」ある場合は「○システム異常あり!」が表示されます。どのシステムに異常があるかを確認する場合は「診断結果」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



全自己診断結果画面から行えること

- 印刷：詳しくは [14 ページ](#)へ
- データ保存：詳しくは [13 ページ](#)へ
- 全自己診断の消去：詳しくは [11 ページ](#)へ

10.

診断結果の一覧が表示されます。故障コードがメモリされていないシステムは「OK」メモリされているシステムは「故障コードの数+DTC」が表示されます。故障コードを確認するには該当システムを選択して[ENTER]ボタンを押します。



11.

選択したシステムの診断メニューが表示されます。「故障コードの読取」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



12.

故障番号と内容が表示されます。[ENTER]ボタンを押すと詳細表示されます。



詳細表示画面では「データ保存」「印刷」ができます。詳しくは [13 ページ](#)をご覧ください。

2

故障コードの消去

全自己診断からの故障
コード消去の場合

1.

点検結果画面から「全自己診断の消去」を選択して
[ENTER]ボタンを押します。



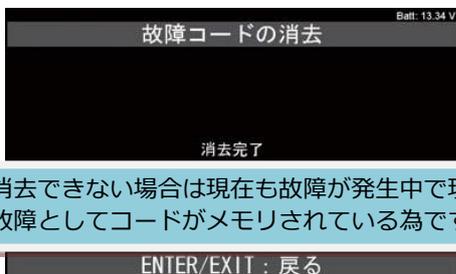
2.

消去の実行は[ENTER]ボタンを押します。
消去は**イグニッション ON**で行います。



3.

消去が完了すると以下の画面が表示されます。
[EXIT]ボタンを押して戻ります。



3

故障コードの消去

個別システムからの故障
コード消去の場合

1.

診断メニュー画面から「故障コードの消去」を選択
して[ENTER]ボタンを押します。



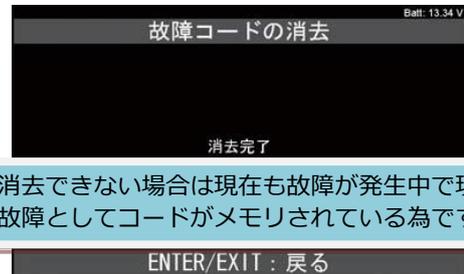
2.

消去の実行は[ENTER]ボタンを押します。
消去は**イグニッション ON**で行います。



3.

消去が完了すると以下の画面が表示されます。
[EXIT]ボタンを押して戻ります。



4 データモニタ

1.

個別システムの診断メニュー画面から「データモニタ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

表示選択項目が表示されます。

全項目にチェックが入った状態で表示されます。
[開始]を選択して[ENTER]ボタンを押すとチェックが入っているすべての項目が表示されます。



- [選択・解除] → 1項目ずつ変更できます。
- [すべて選択] → すべての項目が選択されます。
- [すべて解除] → すべての項目が解除されます。

1項目ずつ変更する場合は左右ボタンで [選択・解除] にカーソルを合わせてから上下ボタンで変更したい項目に合わせて[ENTER]ボタンを押します。
ボタンを押す度に選択⇔解除が切替わります。

3.

「表示選択項目」で選択された項目が表示されます。



4.

リスト表示の場合



[上下]ボタンで1項目ずつ表示がスクロールします。
また、画面下左右の[上下矢印ボタン]を選択して[ENTER]を押すとページ移動ができます。

リスト表示画面では「データ保存」「印刷」ができます。
保存したデータは「履歴」から閲覧できます。
詳しくは「6. 履歴」(21ページ)をご覧ください。

グラフ表示の場合 ※グローバルOBD2ソフトのみ



「データモニタ」を選択した際に「リスト表示」と「グラフ表示」の選択画面が表示されます。
「グラフ表示」を選択すると2項目までグラフ表示することができます。

※グラフ表示は最大2項目しか選択、表示できません。

5 データ保存

故障コードの保存

1.
「故障コードの読取」画面で[ENTER]ボタンを押します。



2.
詳細表示画面から[データ保存]を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.
データが保存されます。

保存したデータは「履歴」から閲覧できます。
詳しくは「6. 履歴」(21 ページ) をご覧ください。



データモニタの保存

1.
データモニタ表示画面から[データ保存]を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.
データの保存が開始されます。
[ENTER]または[EXIT]ボタンを押すまで保存し続けます。ボタンを押すと保存を終了します。



3.
データが保存されます。

保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。
詳しくは「6. 履歴」(21 ページ) をご覧ください。

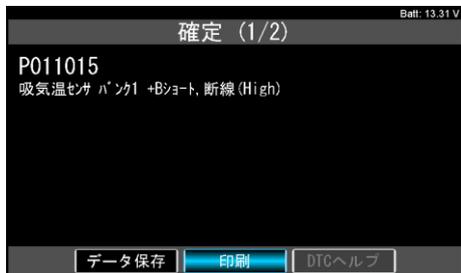


TPM-5 はセイコーインスツル株式会社のモバイルプリンター (MP-B30) と Bluetooth 接続して印刷することが可能です。初めて印刷を行う際は下記手順で設定 (ペアリング) を行ってください。

6 結果を印刷する

1.

画面下に「印刷」ボタンが表示されている画面を表示します。



2.

プリンターの電源ボタン (1) を長押しします。POWER ランプ (3) の緑が点灯して WIRELESS ランプ (2) の青が点滅から 2 回点滅を繰り返すまで長押しします。青ランプが 2 回点滅を繰り返し始めたらボタンから手を離します。(ペアリング待機状態)



3.

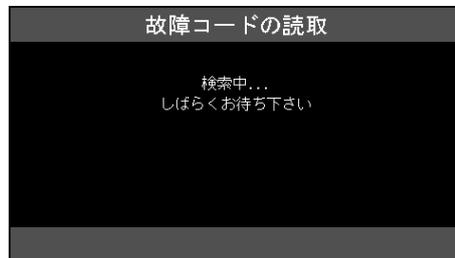
[印刷]ボタンを選択し [ENTER]ボタンを押します。



4.

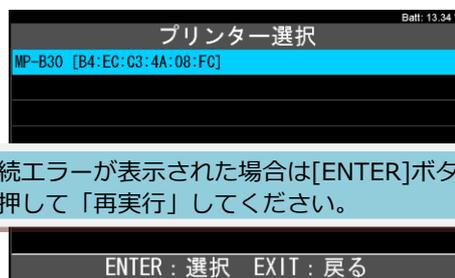
診断機がプリンターの検索を開始します。

※検索には少しお時間がかかります。



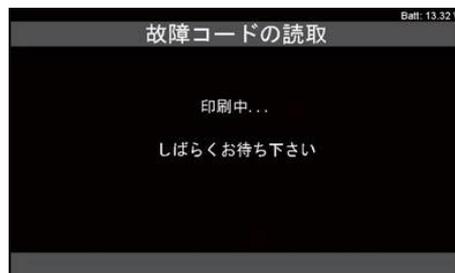
5.

プリンターが検出されたら[ENTER]ボタンを押します。



6.

プリンターが登録され印刷が開始されます。



以上で登録が完了しました。

一度登録されると、次回からプリンター選択画面は表示されません。

7 DTC ヘルプ機能

1.

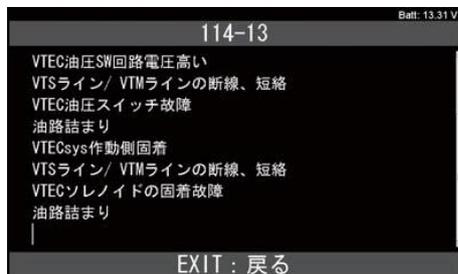
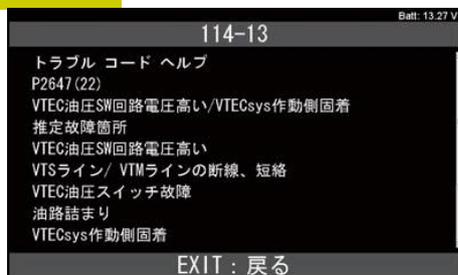
診断ソフトによっては DTC ヘルプ機能があります。
故障コードの詳細画面の表示で「DTC ヘルプ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

DTC ヘルプ画面では故障コードの検出条件などの情報が表示されます。

例：ホンダソフト



注意：カスタマイズ機能はメーカーにより異なります。

8 カスタマイズ

例：トヨタ車のシートベルトウォーニングブザー設定の場合

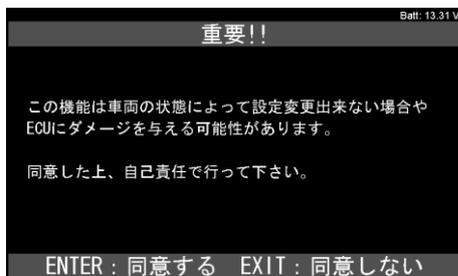
1.

トヨタ診断ソフトのメインメニューまで進みます。
「カスタマイズ」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



2.

注意事項が表示されます。
確認して[ENTER]ボタンを押します。



3.

「New」（ディーラー診断機に準拠した項目）と「Previous」（それ以前の項目）が表示されます。
通常は「New」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



4.

カテゴリ別に表示されます。
「ウォーニング」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



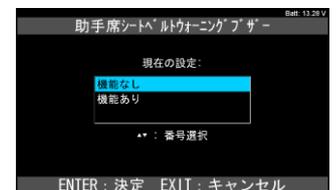
5.

「助手席シートベルトウォーニングブザー」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



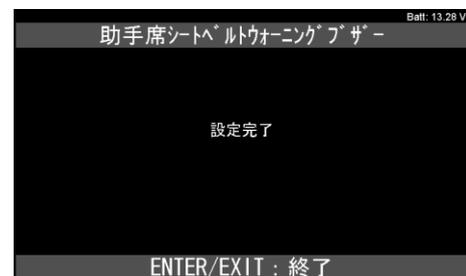
6.

現在の設定が反転して表示されます。
上下矢印ボタンで選択後[ENTER]ボタンを押して決定します。



7.

設定が変更されました。
[ENTER]または[EXIT]ボタンを押して終了します。



注意：作業サポートの手順はメーカー発行の整備書を参照してください。

9 作業サポート

例：トヨタ車のHV「整備モード」の場合

1.

トヨタ診断ソフトのメインメニューまで進みます。「作業サポート」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



2.

「New」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.

システム選択画面から「HV」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



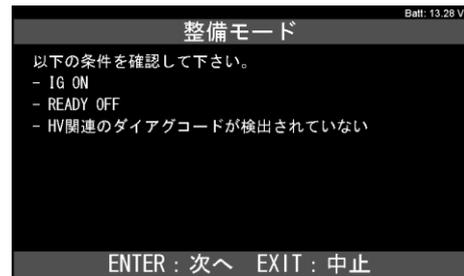
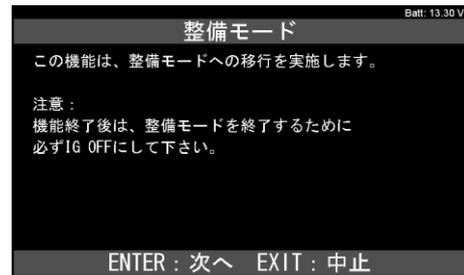
4.

機能一覧画面から「整備モード」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



5.

機能説明と前提条件が表示されます。確認して[ENTER]ボタンを押します。



6.

整備モード選択画面から目的に合ったモードを選択して[ENTER]ボタンを押します。



排ガス測定用：

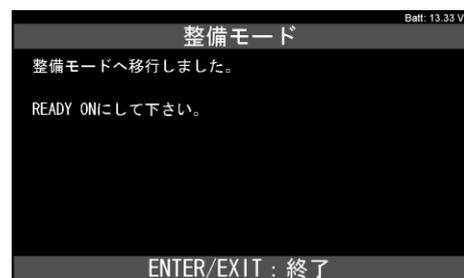
- シフトポジションP時のエンジン強制アイドルリング
- TRC装置の作動解除

TRC 禁止用：

- TRC装置の作動解除

7.

整備モード移行が完了しました。READY ON で適応されます。



注意：アクティブテストの手順はメーカー発行の整備書を参照してください。

10 アクティブテスト

例：トヨタ車のエンジンパワーバランスの場合

1.

トヨタ診断ソフトのメインメニューまで進みます。「アクティブテスト」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



2.

「アクティブテスト 1」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.

システム選択画面から「エンジン」を選択し[ENTER]ボタンを押します。



4.

機能一覧画面から「パワーバランス」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



5.

左右ボタンで気筒を選択して[ENTER]ボタンを押して実行します。



5. 特殊機能

「特殊機能」は作業サポート機能をまとめて、選択の手間を省略化した機能です。
メンテナンスモード、DPF 再生機能、簡易バッテリーテスト、エーミングモードが実行できます。

1 特殊機能の各アイコン



メンテナンスモード：
ブレーキのエア抜きや整備モードなど
常よく行う作業サポート項目を
まとめてあります。



DPF：
DPF 再生に関連する機能をまとめて
あります。



エーミング：
エーミングに関連する機能をまとめて
あります。



簡易バッテリーテスト：
車両側 OBD2 コネクタのバッテリー
端子の電圧からバッテリーの簡易点検
を行います。

2 簡易バッテリーテスト

1.

この機能は 12V バッテリーと充電系統の簡易点検が行えます。(HV 車、24V 車は対象外)
尚、端子電圧のみで判定を行う為、最終的な良否判断は CCA 値などの測定が可能なバッテリーチェッカーによる点検や整備書に基づいた点検を行い判定してください。

- 車両側の IG キーをオンにします。
- 「簡易バッテリーテスト」を選択して[ENTER]ボタンを押してください。



2.

車両の状態を確認する画面が表示されます。
確認して[ENTER]ボタンを押します。



3.

始動前のバッテリー電圧が表示されます。
エンジンを始動させてください。



4.

始動時のバッテリー電圧と充電電圧の計測が開始されます。



(次のページへ)

5.

計測された始動前、始動時、始動後の充電電圧値が表示されます。

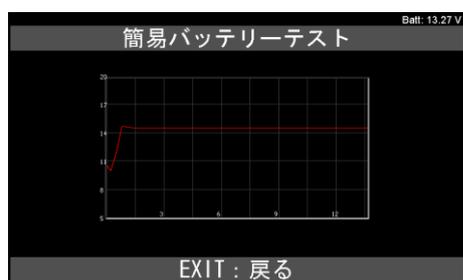
[ENTER]ボタンを押します。



6.

計測した電圧値がグラフ表示されます。

[EXIT]ボタンを押します。



7.

点検結果が表示されます。



6. 履歴

保存した故障コードやデータモニタの表示（再生）や削除が行えます。

1 保存データの表示（再生）

故障コードの場合

1.

「履歴」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

「再生」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.

保存を実行した診断ソフトの一覧が表示されます。再生するデータが保存されている診断ソフトを選択して[ENTER]ボタンを押します。



4.

保存したデータの種類の選択画面が表示されます。「DTC」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



5.

保存データ選択画面が表示されます。再生するデータを選択し[ENTER]ボタンを押します。



6.

保存したデータのシステムが表示されますので選択して [ENTER]ボタンを押します。



7.

保存されたデータが表示されます。

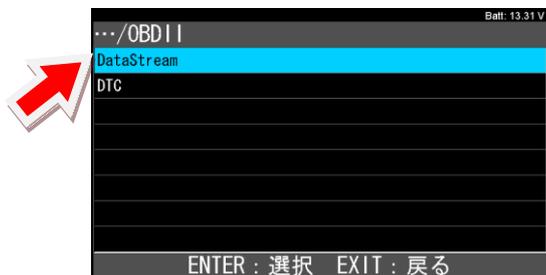


(次のページへ)

データモニタの場合

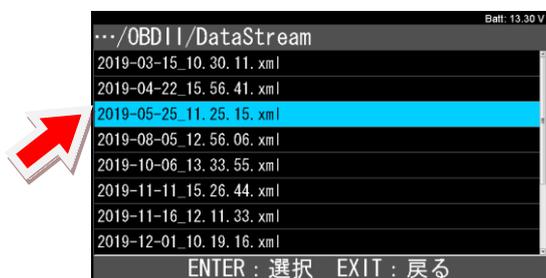
1.

故障コードの場合と同じく「履歴」 - 「再生」 - 「保存した診断ソフトの選択」を行います。保存したデータの種類の選択画面から「DataStream」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



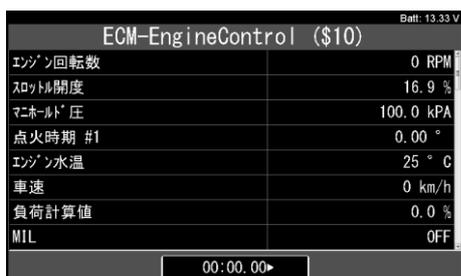
2.

保存データ選択画面が表示されます。再生するデータを選択し[ENTER]ボタンを押します。



3.

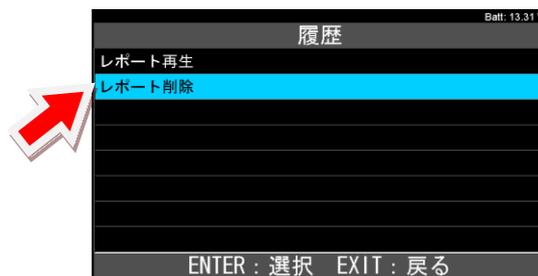
表示項目選択画面が表示されます。表示する項目を選択後、「開始」を選択して[ENTER]ボタンを押します。保存データが表示されます。左右矢印ボタンを押すと保存データがコマ送りで表示されます。



2 保存データの消去

1.

「履歴」メニューから「削除」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

再生と同じように診断ソフト、データの種類の選択します。データ選択画面が表示されますので、[選択・解除][全て選択][全て解除]ボタンのいずれかを使用して削除するファイルに☑を入れます。



3.

[削除]ボタンを選択して[ENTER]ボタンを押します。



4.

「ファイルを削除しますか？」画面が表示されますので、問題がなければ[ENTER]ボタンを押します。保存データが削除されました。

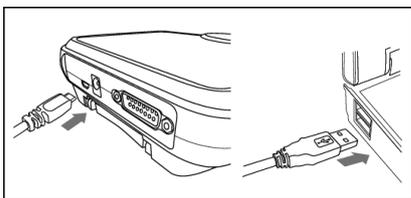


7. 保存データを PC で確認する

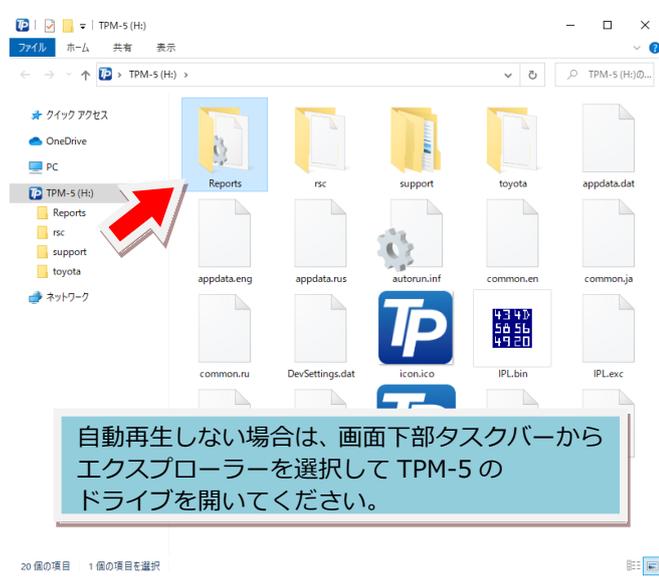
保存したデータは本体をパソコンと接続して確認することができます。

1 ファイルを表示する

1. 本体とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。



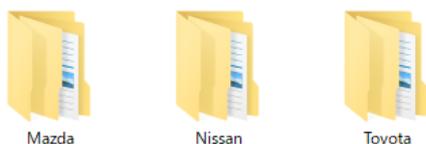
2. パソコンの自動再生が ON に設定されている場合は TPM-5 のドライブが開きます。



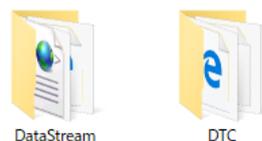
4. 「TPM-5」のドライブ内にある「Reports」フォルダを開きます。



5. 保存を実行した診断ソフト毎にカーメーカー名のフォルダが表示されます。選択してカーメーカー名のフォルダを開きます。



6. 保存を実行した機能名のフォルダが表示されます。選択してフォルダを開きます。



7. 保存したデータファイルの一覧が表示されます。一つの保存ファイル毎に拡張子が「html」と「xml」のファイルがそれぞれ保存されています。拡張子「html」のファイルを開きます。

名前	更新日時	種類
2019-10-21_09.00.33.html	2019/10/21 9:00	HTML ファイル
2019-10-21_09.00.33.xml	2019/10/21 9:00	XML ドキュメント
2019-10-21_09.00.38.html	2019/10/21 9:00	HTML ファイル
2019-10-21_09.00.38.xml	2019/10/21 9:00	XML ドキュメント
2020-02-18_19.10.37.html	2020/02/18 19:10	HTML ファイル
2020-02-18_19.10.37.xml	2020/02/18 19:10	XML ドキュメント
All_2020-02-18_19.10.19.html	2020/02/18 19:10	HTML ファイル
All_2020-02-18_19.10.19.xml	2020/02/18 19:10	XML ドキュメント

8. ご使用のブラウザが起動して保存データが表示されます。

システム	状態
PCM(エンジン)	1 / 3 : P0107:00 吸気圧センサNo.2系統:低入力
	2 / 3 : P0118:00 冷却水温センサ系統:高入力
	3 / 3 : P0472:00 排気圧センサNo.1系統:低入力
TCM(トランスミッション)	OK
ABS/DSC	1 / 3 : C0023:62 ストップ・ライト・スイッチ系統
	2 / 3 : C0089:64 TCS/DSC OFFスイッチ系統
	3 / 3 : U3003:1C 電源系統

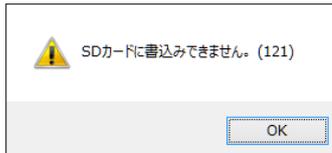
8. トラブルシューティング

(windows10 の場合)

アップデートが正常にできない場合は、セキュリティソフトやパソコンの設定で外部メモリへの書き込みが禁止されている場合があります。事前に設定などを確認した上で以下の手順を行ってください。

Q.1 書き込みができない

[アップデートチェック]ボタンを押しても「書き込み出来ません」「再試行してください」とメッセージが表示されてアップデートが行えない。



A.1 「TPM.exe」(アプリケーション)を最新のバージョンに行ってください。

アプリケーションを最新にすることにより、アップデートを行える場合があります。

1. 以下のリンク先にアクセスしてください。

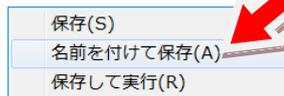
<http://www.scantool.jp/downloads/tpm/tpm.exe>

2. メッセージが画面下に表示されますので、保存の右にある▼をクリックします。

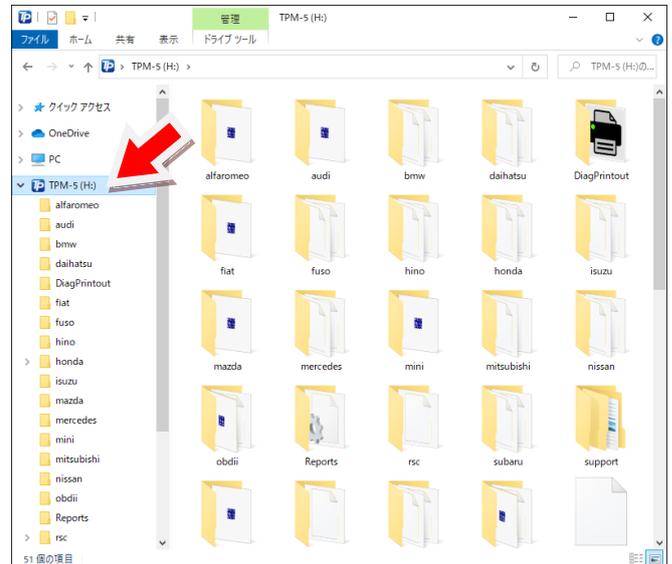
セキュリティ警告メッセージが表示された場合は接続サイトを確認して許可してください。



3. 「名前を付けて保存」をクリックします。



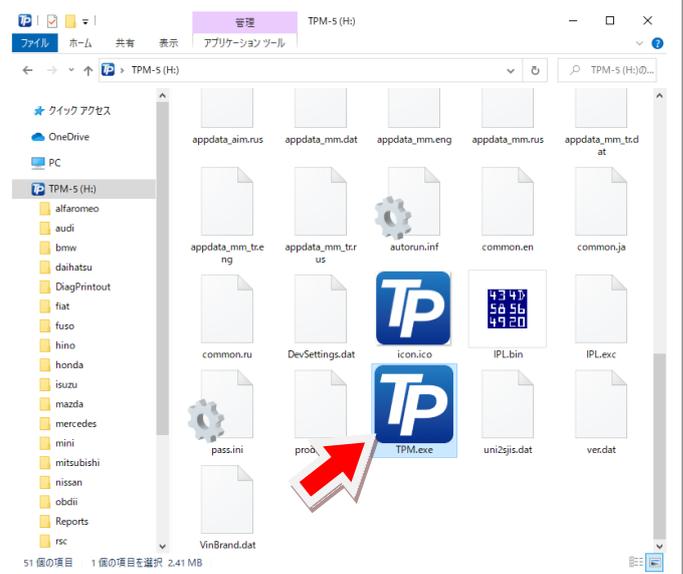
4. 保存先を「TPM-5」にして[保存]をクリックします。



5. 同じ名前のファイルがある場合は次のメッセージが表示されますので[はい]をクリックします。



6. 保存が完了したらクイックスタートガイドを参考にアップデートを行ってください。



A.2 フォーマットしてアップデートを行ってください。

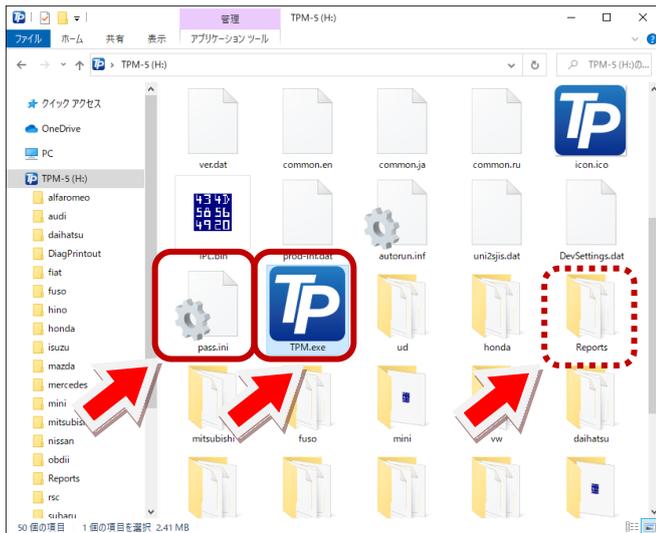
アプリケーションを最新にしても書込みが出来ない時は、フォーマットすることにより正常に書込みができる場合があります。

1. この作業は先に必要なファイルをパソコンにバックアップ（保存）した後にいきます。
2. TPM-5 を付属の USB ケーブルを使用してパソコンに接続します。
フォルダを開いてファイルを表示または手動で「TPM-5」のドライブを開きます。
TPM-5 の内容が表示されます。

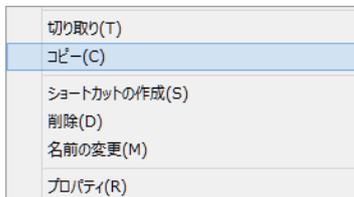
画像を参考に以下のファイルをコピーします。

- TPM (TPM.exe) (アプリケーション)
- pass (pass.ini) (構成設定ファイル)
- Reports (フォルダ)

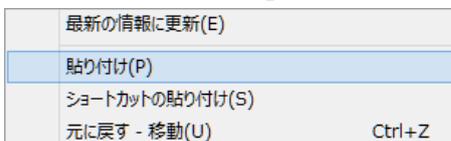
※「Reports」フォルダは、故障コードやデータ表示などで[保存]を実行した場合にファイルが保存されているフォルダです。保存していなければコピーする必要はありません。



3. 対象ファイルを右クリックして「コピー」をクリックします。



4. コピー先（デスクトップなど任意の場所に）で右クリックして「貼り付け」をクリックします。



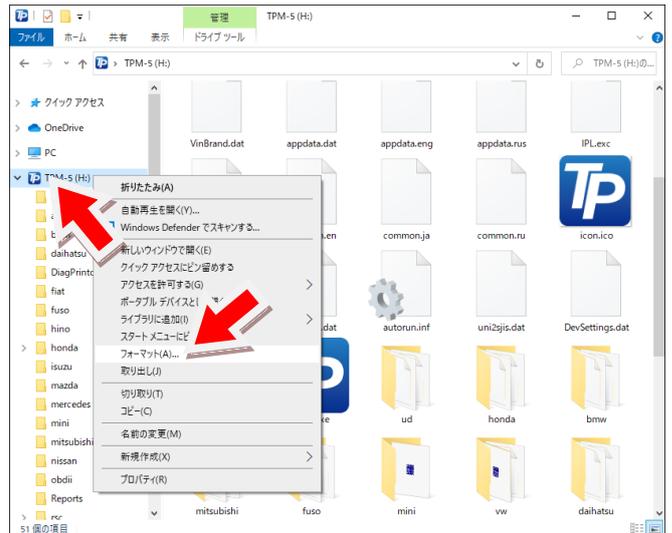
※ドラッグ&ドロップで任意の場所に移動しても問題ありません。

5. パソコンへ必要なファイルのバックアップ（保存）が完了しました。



6. バックアップが完了したらフォーマットを開始します。
「TPM-5」のドライブを右クリックして「フォーマット」をクリックします。

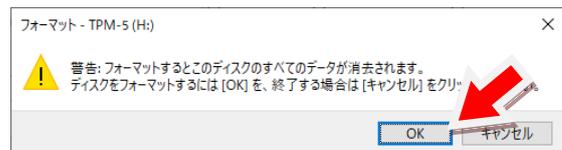
フォーマットするドライブにご注意ください。



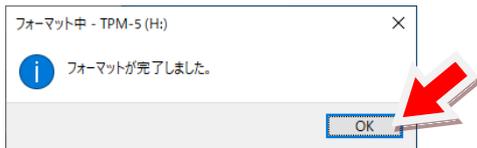
7. フォーマットの画面が表示されますので、[開始]をクリックします。



8. フォーマットの確認メッセージが表示されます。確認して[OK]ボタンをクリックします。



9. フォーマット完了のメッセージが表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。



10. フォーマットが完了すると、通常のリムーバブルディスクのアイコンに変わります。

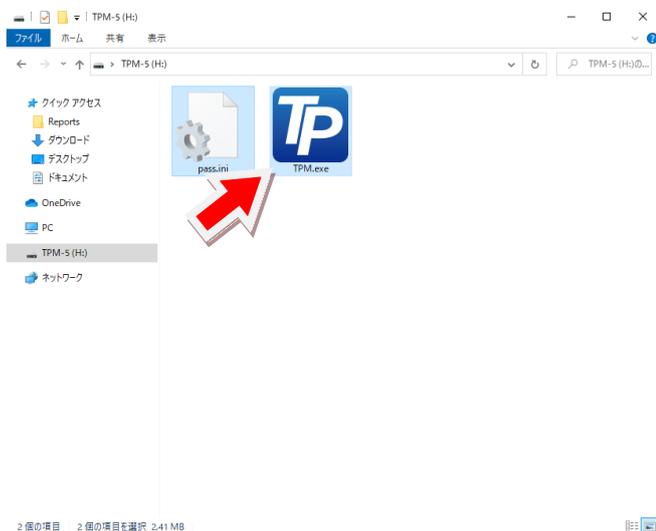


11. 先程バックアップ（保存）したファイルを右クリックして「切り取り」または「コピー」します。
フォーマットが完了した「TPM-5」ドライブに右クリックして貼付けます。
または、ドラッグ&ドロップでコピーします。



12. 貼付けが完了後「TPM (TPM.exe)」をダブルクリックして起動します。

起動後クイックスタートガイドを参考にアップデートを行ってください。



Q.2 サーバーからの応答がない

「サーバーからの応答がありません。」とメッセージが表示されてアップデートが行えない。

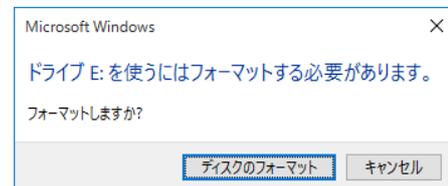
A.1 パソコンの設定やセキュリティソフトを確認してください。

パソコンの設定やセキュリティソフトの設定を確認してください。
設定はパソコンの管理者またはセキュリティソフトのメーカーへお問合せください。

また、インターネットが正常に接続されているか確認してください。

Q.3 「フォーマットする必要があります」とメッセージが表示される。

パソコンに接続しても以下のメッセージが表示され、TPM-5のドライブが表示されない。

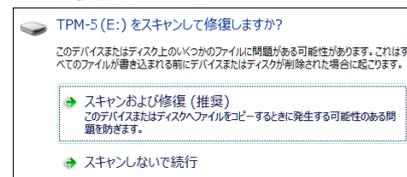


A.1 販売店へご連絡ください。

ご使用の本体シリアル番号をご確認の上ご購入された販売店へご連絡ください。

Q.4 「スキャンして修復しますか？」とメッセージが表示される。

パソコンに接続すると「スキャンして修復しますか？」のメッセージが表示される。



A.1 修復をすると問題が解決される場合があります。

修復することにより問題が解決する場合がありますので、「スキャンおよび修復」を実行されることを推奨します。

9. 保証について

- ・TPM-5 はお客様がインターネットを使用してユーザー登録した日を開始日として 1 年間保証されます。但し、保証期間はインターネットを使用して正しくユーザー登録されている場合のみ有効です。
- ・保証対象は本体のみです。ケーブルなどの付属品は保証対象外となります。
- ・保証期間内に正常な使用方法にて故障した場合は無償修理いたします。
- ・火災、天災による故障の場合は保証適応外となります。
- ・乱用、改造、分解あるいは意図された用途以外の目的に使用された場合は保証適応外となります。
- ・原則的に本製品は現品修理となります。
- ・お買い上げになりました TPM-5 本体、ケーブルやアダプタなどを修理のために送付しなければならない場合の往復運賃はお客様のご負担となります。

保証期間：ユーザー登録から 1 年間

- ・期間終了後 1 ヶ月以内にアップデート延長申込をされた場合に限り、本体保証も 1 年間延長されます。

※アップデートおよび保証期間はメインメニューの「本体 ID」からご確認いただけます。

お問合せ先について

製品の取り扱いに関するお問い合わせ並びに診断不可車両がございましたら自動車検査証など車両情報が分かるものをご用意の上、お買い上げの販売店までご連絡ください。

なお、故障コードに対する修理方法等は返答致しかねますので、車の修理書等をご覧頂く様予めご了承願います。

製造元：株式会社ツールプラネット

〒500-8122 岐阜県岐阜市旭見ヶ池町 43-2
TEL:058-246-1733 FAX:058-246-1736